

簡易幼稚園及其方法の研究についての希望

東京高等師範學校教授

乙 竹 岩 造

簡易幼稚園といふことは、實は、自分が、かれこ

れ十年このかた考へて居つたものであつて、いつか何等かの機會に於て、保育のことに當つて居らるゝ方々に申上げて見て御參考に供し、且つ出来ることならば、御研究を願ひたいと思ふて居つたことなのである。それで甚だ漠然として居ることではあるけれども、申述べてみようと思ふ。尤も自分はその實際的方法をこまかくたてゝゐるといふわけでもなく、又、外國でやつてゐることでも無く、單に一つの思付きに過ぎないのであるが、然かしまるで雲をつかむやうな話でも無いと自分は思ふから、自分の考へてゐる所をそのまゝ述べてみよう。尤も簡易幼稚園といふ名が不適當かもしれない、若しさういふ名が思はしくなければ、その名は何とあらためてもよからうと考へる。それから又これはあまり漠然として居て實行が出来にくいといふことならば、また、

考へなほしてもみたいと思ふのである。

一體、學齡未滿兒童の教養といふことの重大であることは、今更申すまでもないことである。しかるに家庭を助けてこの期の幼兒の保育に當つて居る幼稚園といふものを考へてみると、都會地などには、數々あるけれども田舎などには一向少い。全國について考へてみれば、一縣に六つか七つに過ぎまいと思ふ。したがつて其處に收容し得る幼兒の數は、その地方における學齡未滿兒童の總數にくらべれば、殆んど比較にもならぬのであつて、實際幼稚園の恩恵を蒙りつて居る幼兒は、まことに少數であることは言ふまでもない所である。

尤も各々の家庭が、幼兒の教養に充分の注意を加へ得るならば、無論、これにこしたことはないのであるが、然かし仲々實際はさうは行かない。そこで、

家庭を助けてなるべく多數の幼児をして、適當なる保育の恩恵にあづからしめるといふことの工夫はどうしても必要である。しかるに、本統の幼稚園は一定の設備を要し、素養のある保姆がその保育に當るのであるから、さういふ幼稚園を津々浦々にまで普及すといふことは、切に望む所ではあるけれども、仲々行はれ難い。そこで何とかして適當な方法を講じたいものと、兼々思つておつたのである。實際家庭に於て、學齡未滿頃の幼児の教養の有様を見ると、なか／＼手がとゞか無いのが多い。大體は放任勝ちであつて、ともすると怪我をさせたり、心身ともに自然の發達が妨げられたり、或は不良の習慣がついたりして、その結果、一生涯治することの出來無い缺陷をもつことになるといふような場合も決して少くはない。所が今も言つた通り、幼稚園の數は極く少ないのであるから、兎に角、極く手近な簡易な方法で、少しでも幼児の教養に補益あらしむる途を考へるといふことであらうと思ふ。

現代における子供の生活といふものを考へてみると、極端に形容するならば、一喜、一憂交々いたるといふ感が無いではない。といふのは、世の中が段

段進歩して來た結果、今日は都市といはず田舎といはず、工業、商業、農業各方面共に仕事が大變進んで來たのにつれて、それが爲に、子供の自然の遊び場所といふものが奪はれ勝ちであるように思はれる。彼等が、自由に楽しくかけまはつてゐた野原には、倉庫や會社がたてられる、彼等が思ふ存分つばなを摘んで遊んだ廣場には、工場や製絲場がたてられて板塀や境が出來て「無用のもの入るべからず」と立札が立てられたといふようなわけで、子供の遊び場は次第に彼等から取り上げられる。その上、都市では、電車よ、自動車とおひたてられて、街上で安心して遊ぶことさへ叶はない、實に近代文明が子供の遊び場を奪ひつゝあるといふことは都鄙を通じての事情で、子供の爲といふ見地からは悲しむべきことゝ言はねばならない。しかし、また、これと同時に、他方には、子供のために公園がもうけられる、鎮守の森がよく手入れをされたり學校の運動場が開放せられたりして子供のよい遊び場所が出来る。ことに都會の地には兒童遊園が出来る——歐米では、公園内に子供専用の場所を設けて居るところがかなり多いが——といふように、次第に子供のためにと

考へて来る趣向がないでもない、これは又洵に喜ばしいこと、言はなければならぬ。兎に角社會の各方面の進歩は實にめざましいもので子供の生活の上にも影響する所が少く無い。そこで子供の教養の問題の如きも亦かういふ事情に適應して行くことを考へなければならぬ。

これは場所の上から子供の生活の工合の推し移ることを述べたのであるが、次に人の點から考へても以前と大分に工合の變つて來て居る所があるやうに思はれる。これまでは、普通の家庭——上流は別として——で子供が幾人もあれば、年長のものが幼い弟妹の子守となり遊び相手となりして守りをしたやうな場合が随分多かつた。又親にしても、主人は外出勝ちであつても、主婦は、大抵家にあつて、家事の傍ら子供の養育に日をおくるといふのが普通のことであつた。しかるに生活の状態がかはつて來た結果主人だけでは無く主婦も外に出て働くことが多くなり、又工場や製絲場やその外色々の業務の發達は、小學校をおへるや否や、これらの幼児のよい遊び相手をわづかの勞銀をもつてかりたてゝ行く。かくて幼児は、その遊び相手をさへ奪はれて、家庭に

おいて、最も自然に保育をうくるといふことが誠に困難になつて來たといふやうな事情もある。

けれども、如何に社會の生活状態が急劇な變化をして來たにせよ、幼児は幼児である、自然が與へたその幼児期をおもふまゝに生きたいのである。遊び場所を求め、遊び相手をほしがらぬ。ないから、與へられないからといつて彼等の盛んな生活力はやむものでない、なければ探す、そしてどんなところでもかまはず、又誰でも選ばず相手をもとめて遊ぶ、こゝにいろ／＼の弊害が生ずる、おもひもつけぬ危害を受ける。甚だしきは野放し同様の有様で不良の習慣を得るやうな虞も無いではない。これは最も寒心すべきことである。

そこで、この有様を如何にすべきかといふに、自分の考へでは、村でも郷でも、その有志の團體が發企して、小さい子供等をあつめて、精々注意を加へてやつて遊ばせるといふことにしたい。鎮守の森に、又はお寺の庭に、橋の畔に、二三人の子供が集まつてゐるとする、「さあ誰も彼もいらつしやい」とそこに散在してゐる子供を集める、そして其處ですぐに幼稚園を始める、朝でも、晝でも、何時でもかま

はない、天氣でさへあれば青空を天井として、石ころも草も、みんなよい自然の遊具とならう。たゞ彼等がそのまゝに打すて、遊ばせておけば、よくない歌をうたつたり、悪いことを覚えたり、危険に近づいたりする、そこで一方にそれをふせぎ、他方に積極的に彼等の遊びを善導することが出来れば、その時間中、その場所での簡易幼稚園は成功したわけである。そして出来れば、彼等の健康状態などにも注意を加へてやる。大層顔色がわるいとか、元氣のないとかいふものがあれば、親に注意をしてやる位のことでも、したいものである。かゝることは、たゞ一方法にすぎないけれども消極的にも、積極的にも、幾分にも、子供等に保護を加へてやることが出来ればそれだけでもよいわけである。設備だとか、遊具だとか、いつてゐては、在來のような幼稚園をさう澤山に、あまねく設立することは仲々六かしい。斯ういふ簡易なものを實現することはさう六かしくは無い。子供の集まるどころに、その遊びを指導監督する世話人がありさへすれば出来るわけである。世話人のことであるから、必ずしも本統の資格のある保母でなければならぬといふわけでもあるまい。

その町の、その村の隠居さんといつたような老人でもよければ、或はその土地で多少閑のある、又、子供好きな人が子供と一緒に遊んでやつてそして常識的に彼等の生活を善導するだけでも、無いよりはよい。教師などをしたことのある老人などが篤志でやつて呉れれば最も仕合せである。かういふようなことが出来れば、ごく簡単に、且、ひろく、子供の遊びの監督、指導といふことが出来るわけである。

元來、子供を教育するといふためには、先づ子供と握手しなければいけない。又更に、その子供の屬する社會と握手しなければならぬ。私のいふ簡易幼稚園といふのは、教育が、この、社會と握手するやうにといふことにある。勿論整つた幼稚園をどうかういふのでは決してない、私、自身は、都會に住んで居るお蔭で、子供に幼稚園の恩恵を享けさすことが出来て、最も深く幼稚園の恩恵をしみじみ感謝して居る一人である。それで本統の幼稚園では充分に保育の方法を考究し、つねに徹底的に幼児の保育の方法が實施せられなければならないが、これと同時に、かういふ本統の幼稚園で實施せられ研究せられ

た事柄の中で、さう設備などの無い所でも、實行出来る或事柄は、これを宣傳し普及せしめて一般民衆の間に於ける幼児教養の實際を進めるといふことに資することが頗る必要なことかと考へるのである。

これも實際問題としては仲々骨の折れることではあるし、又それを充分に行ふには相當の方法と相當の年月も要することではあるが、然かし兎に角幼稚園で研究せられ實施せられた事柄の中で、道具も簡單で設備もさう要らないといふやうなことを簡易な方法で廣く行はせる、又たとひ方法が違つても、兎に角幼児保育の趣意を最も簡易卑近に擴めるといふことは大事なことのやうに思はれるのである。

實際、家庭で手のとく子供によりも、家庭で子供にかまつてゐられないやうな階級の子供にこそ幼稚園が特に必要であらうと思ふ。かの幼稚園の開祖といはれてゐるフレーベル氏が初めて幼児保育の事業を始めたのも、出發點はやはり此處にあつたのであるし、近頃モンテッソーリ女史の「兒童の家」に於ても、收容された子供は貧兒であつたのである。幼稚園の主旨が一方に深く徹底することの大切なのは論をまたないが、又、これと同時に、なるべく廣

く及ぶやうにするといふことも仲々必要である。

尤もこの簡易幼稚園の實行のためには、實際これに當たる人を要するは、勿論であるとも、市町村の人達が、學齡未滿幼兒の生活教養に對して充分の理解と同情をもつといふことが大切である。さうで無いと到底むづかしい。それから又實際これに當る人であるが、これもむづかしいことをいつてゐては、仲々人を得られない、又贅澤な設備をのぞんで到底不可能である。唯だ子供好きの人が、ごく親切な心で、その閑を子供どもにくらしてくれるのであればよい。斯ういふ風にすれば、左程實行は困難でなからう。フレーベル氏のやりかたを考へて見ても、やはり私の云ふ簡易の方法で、初めは、自分の居る森の中で、身内の者の子供を集めて遊んだのである。そして、その後とても、諸々遍歴して、いたるところに其主旨を宣傳したのである。

近頃は、各方面に通俗講演などが行はれて、修養の上にも、生活職業の上にも、裨益を興ふところが甚だ多いのは洵に喜ばしいことである。勿論各種事業の改善、その發達に力をつくすことは大切で、商業の方面や工業の方面や農事の改良や一般に普及

せしむべき事柄は實に多いに相違ない。しかし遺憾なことはない、これらの講演會に於て兒童の問題に關する事柄の取扱はれることの猶ほ割合に少いといふことである。如何によい事柄もこれを受け繼ぐべきものが立派でなければ、何にもならないのだから今日の仕事を繼承すべき兒童等の健全なる發達の保護その教養上の顧慮が極めて大事なことである。それがもつと盛んに叫ばなければならぬ。とにかく、かういふやうに幼兒保護の問題なども、かういふ講演などに於てよく宣傳せられて充分の理解と同情とを一般の人に與へたいものである。

以上、私の所謂簡易幼稚園なるものゝ意味と、その必要ならびに、普通の幼稚園との關係などを大體述べたつもりである。しかし、初めにもいつたように、これは、私は、たゞ漠然と考へてゐることで、その詳細にわたる實行の方法は、どうしても、現に保育に當たつて居られ又長い實際の經驗を有つて居らるゝ方々の御研究にまたねばならぬ。私は、實際幼稚園事業にたづさはれる方々が、かういふ方面にもお考をお加へくださるゝことを切におすすゝめする

次第である。

我國民は、昔から子供を大切にする國民といはれてゐる。外國人の紀行などの中にも、よくそうしたことがかいてある。先年、私が歐洲に居た折に、有名なエレンケイ女史に會つたことがある。その時女史が曰ふにあなたの國では、親が子供に非常な注意をはらひ、中流以下の人でさへもさうであると聞いてゐるが、歐洲人は、この點では、貴國に學ばなければならぬと。我が國において、兒童取扱ひの現狀は、果して女史のいふが如くであらうか。大切にするといふ精神はあつても、その實際の方法が充分に講せられて居るであらうか。況んや、世界大動亂の後をうけたる今日、その多事なる國家を脊負つてたつべき次代の國民——子供——の教養に、各國とも非常な力をそゝいて居ることは明白な事實である。

我國も、この點に就ては今後益々努めなければならぬのは無論のことである。それは前にも言つた通り、家庭、幼稚園、學校、社會が互によく握手協力して進まればならぬ。家庭には手のとどかない家庭が多く、幼稚園は到底多數の學齡未滿兒童を收容しきれないとすれば、家庭を助けて、動もすればなげやりになされて居る幾多の幼兒に教育的影響を與へるやうに努むることは大事な問題であると思ふ。それ故これに就て、私の年來考へておつたことを、此處にのべて實際家の方々の御参考に供し御研究を願ひたいと思ふのである。

(談話：文責記者)